



肺がん 2021年12月版

Oncologist Fact Report

肺がん診療医の情報収集レポート

2021年新薬の認知・処方実態や処方に至るまでの
カスタマージャーニー

株式会社メディカルトリビューン

Lung cancer '21

目次

ページ

1	肺癌に関するレポートご提供の背景	3
2	調査概要	5
	● 回答者属性	7
3	エグゼクティブサマリー	15
4	調査結果詳細	
	● 第一部：肺癌の治療実態	
	– 4-1.非小細胞肺癌 ドライバー遺伝子変異／転座陽性関連	19
	– 4-2.非小細胞肺癌 ドライバー遺伝子変異／転座陰性関連	86
	– 4-3.進展型小細胞肺癌関連	136
	● 第二部：肺癌を診察する医師の情報収集実態	
	– 4-4：日常診療	164
	– 4-5：MR/MSL	180
	– 4-6：学会/セミナー	199
	– 4-7：カスタマージャーニー：非小細胞肺癌 ドライバー遺伝子変異／転座陽性関連	212
	– 4-8：カスタマージャーニー：非小細胞肺癌 ドライバー遺伝子変異／転座陰性関連	223
	– 4-9：カスタマージャーニー：進展型小細胞肺癌	230
	– 4-10：キャズム理論を参考とした回答医師のグループ分けによる考察	236

調査概要

前回（2021年3月版）

今回（2021年12月版）

調査 対象者条件

1. 呼吸器内科、呼吸器外科、腫瘍内科
2. 20床以上の医療機関に勤務
3. 直近1年以内に肺がんの患者数が1人以上

1. 呼吸器内科、呼吸器外科、腫瘍内科
2. 20床以上の医療機関に勤務
3. 直近1年以内に肺がんの患者数が1人以上

標本抽出

Medical Tribune ウェブ 医師会員

Medical Tribune ウェブ 医師会員

調査手法

WEBアンケート調査

WEBアンケート調査

サンプル数

209ss

201ss

調査時期

2021年2月中旬～下旬

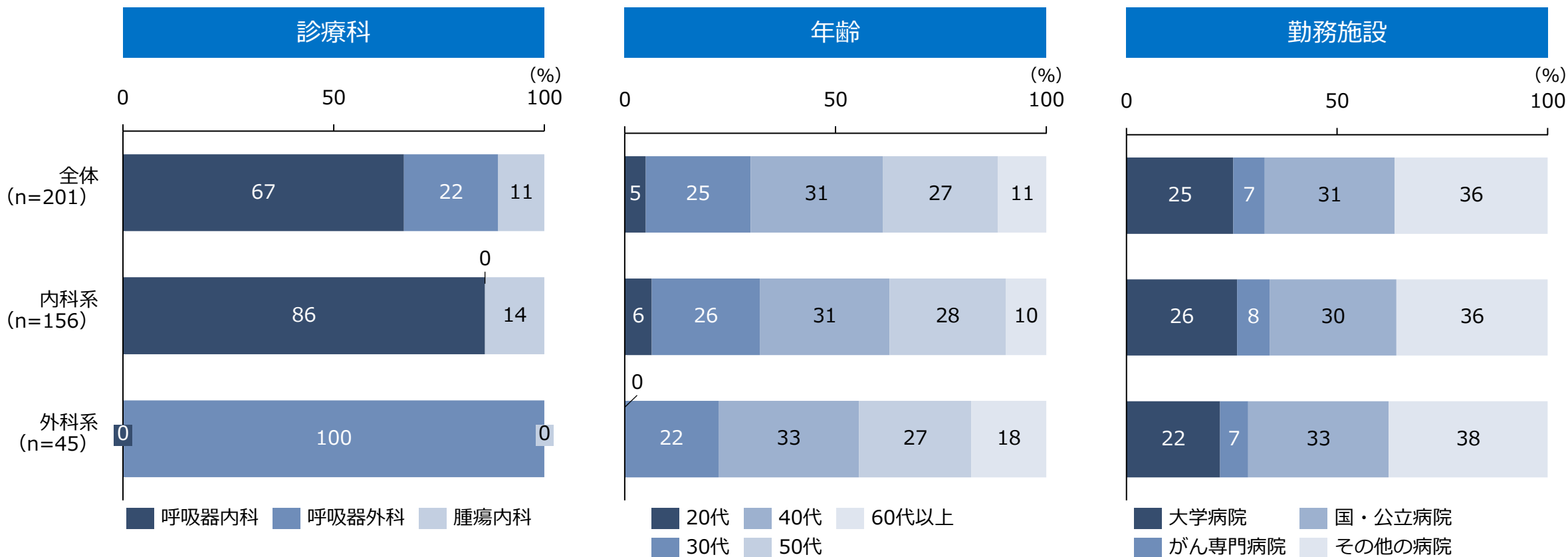
2021年11月中旬～下旬

2014年以降に発売された肺がんの薬剤を対象とし、過去の処方経験や処方に至るまでの経路を聴取した

	適応疾患	一般名	商品名	企業名	クラス	発売/適応拡大年月
1	非小細胞肺がん ドライバー遺伝子変異 /転座陽性	セリチニブ	ジカディア	ノバルティスファーマ	ALK阻害薬	2016年5月
2		ロルラチニブ	ローブレナ	ファイザー	ALK阻害薬	2018年11月
3		ブリグチニブ	アルンブリグ	武田薬品工業	ALK阻害薬	2021年4月
4		ダブルフェニブ	タフィンラー	ノバルティスファーマ	BRAF阻害薬	2016年6月
5		トラメチニブ	メキニスト	ノバルティスファーマ	MEK阻害薬	2016年6月
6		オシメルチニブ	タグリッソ	アストラゼネカ	EGFR阻害薬	2016年5月
7		ダコミチニブ	ビジンプロ	ファイザー	EGFR阻害薬	2019年3月
8		テポチニブ	テプミトコ	メルクバイオファーマ	MET阻害薬	2020年6月
9		カプマチニブ	タブレクタ	ノバルティスファーマ	MET阻害薬	2020年8月
10		エヌトレクチニブ	ロズリートレク	中外製薬	ROS1/TRK阻害薬	2019年9月
11	非小細胞肺がん ドライバー遺伝子変異 /転座陰性	デュルバルマブ	イミフィンジ	アストラゼネカ	抗PD-L1抗体	2018年8月
12		ニボルマブ	オプジーボ	小野薬品工業	抗PD-1抗体	2014年9月
13		ペムブロリズマブ	キイトルーダ	MSD	抗PD-1抗体	2017年2月
14		アテゾリズマブ	テセントリク	中外製薬	抗PD-L1抗体	2018年4月
15		ネシツムマブ	ポートラーザ	日本化薬	抗EGFR抗体	2019年11月
16		イピリムマブ	ヤーボイ	ブリストル・マイヤーズ スクイブ	抗CTLA-4抗体	2015年8月
17	進展型小細胞肺がん	デュルバルマブ	イミフィンジ	アストラゼネカ	抗PD-L1抗体	2018年8月/2020年8月
18		アテゾリズマブ	テセントリク	中外製薬	抗PD-L1抗体	2018年4月/2019年8月

診療科別

✓ 年代の分布や勤務施設の属性に大きな特徴は見られなかった

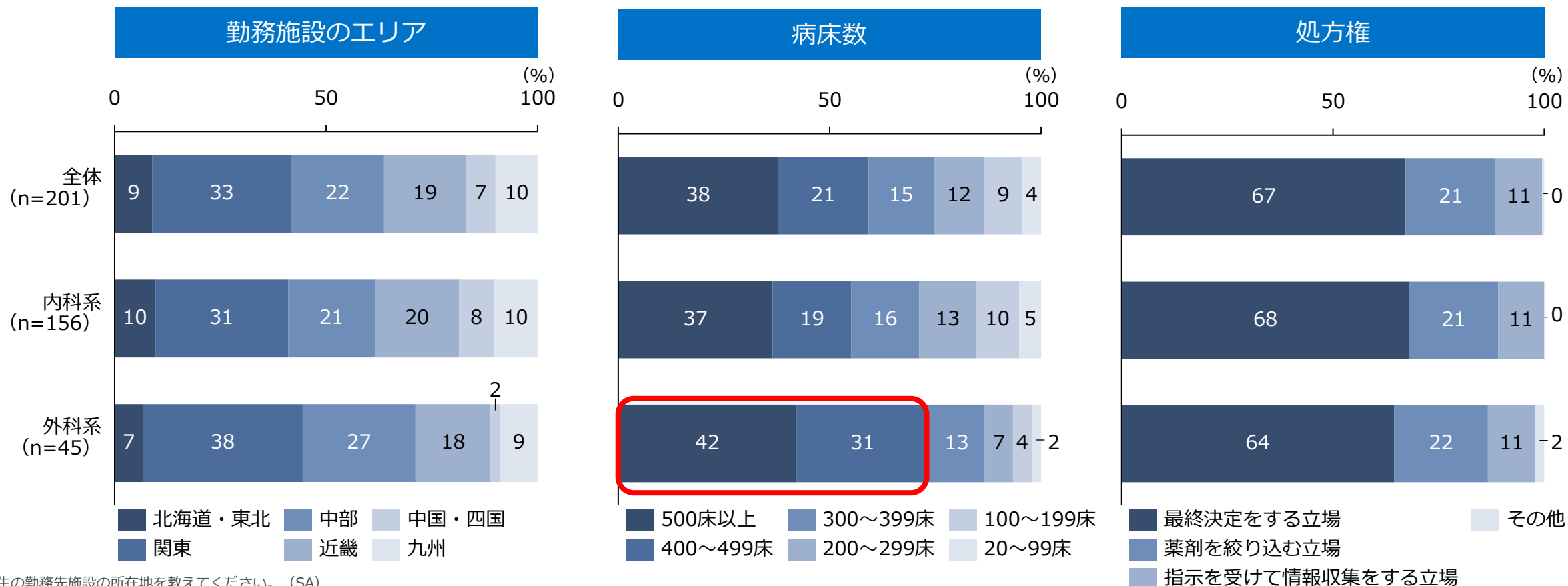


SQ1.先生の主たる診療科を教えてください。(SA)
 F3.先生のご年齢(年代)を教えてください。(SA)
 F1.先生の主たる勤務施設を教えてください。(SA)

回答者基本属性②

診療科別

- ✓ エリアについては関東、中部、近畿が多くを占める
- ✓ 病床数として呼吸器外科で、より大規模病院の割合が多かった



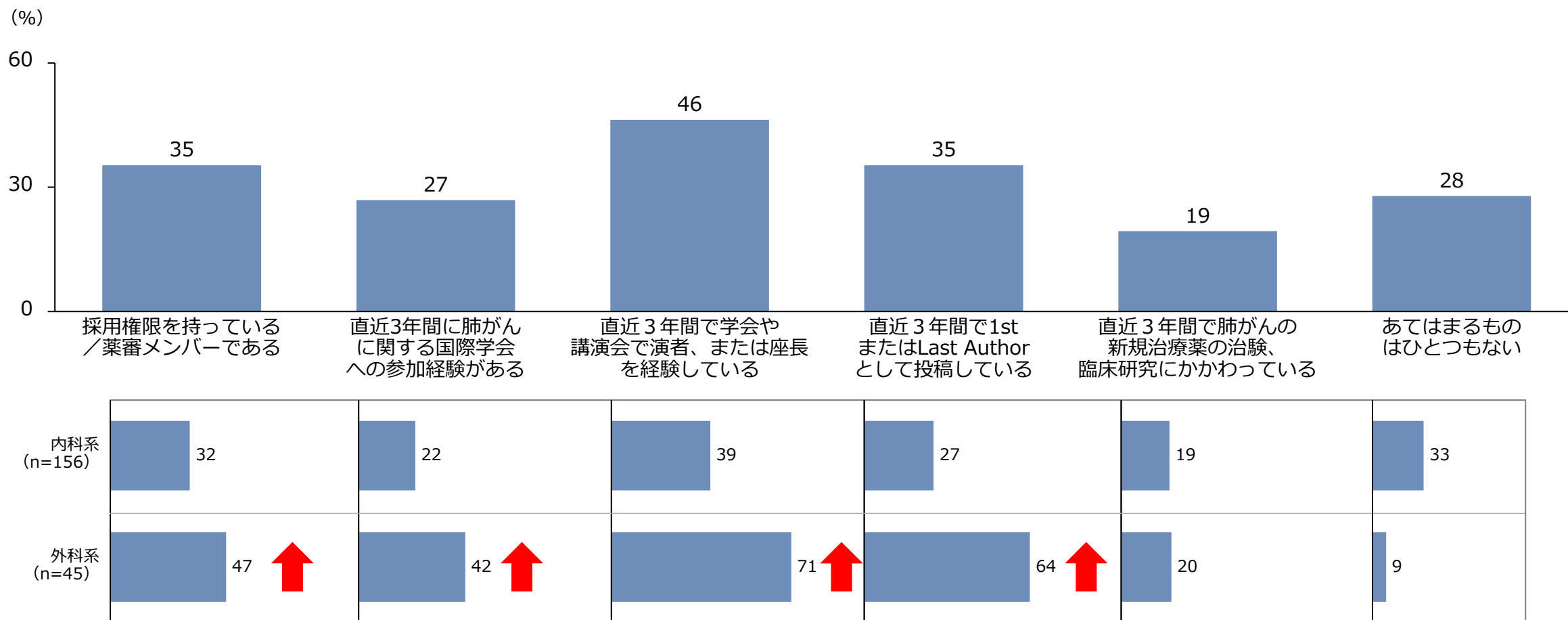
F2.先生の勤務先施設の所在地を教えてください。(SA)

SQ2.先生が主に勤務されている施設の、病床数を教えてください。(SA)

F5.先生はご自身の患者に対し、処方薬剤を決定するお立場にいらっしゃいますか。(SA)

診療科別

- ✓ 内科系の医師に比べ、外科系では学会での演者や座長経験者、Last Authorとして論文を投稿した経験が多いなど専門性の高い医師が多かった



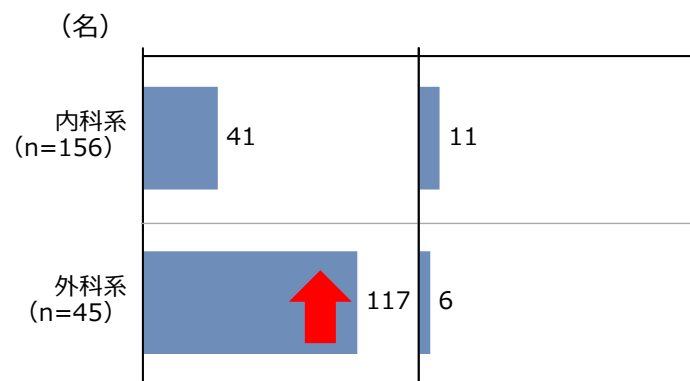
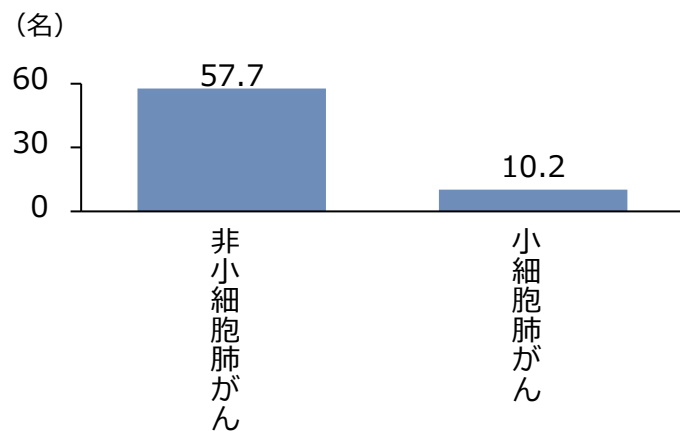
SQ4.先生に該当する項目を全て選択してください。(MA)

回答者属性：診療患者数

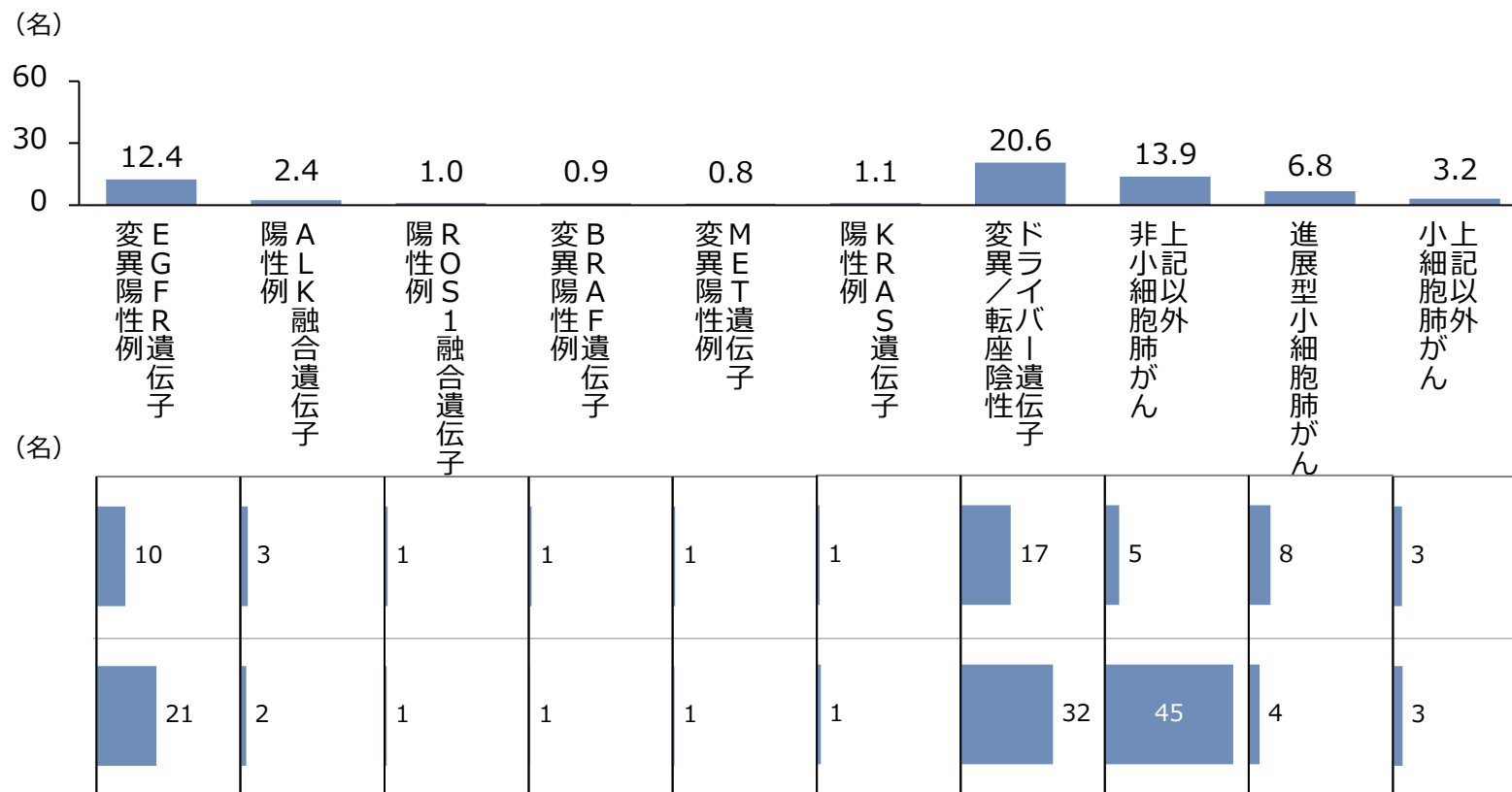
診療科別

- ✓ 外科系の医師は内科系の医師に比べ患者数が多い
- ✓ 非小細胞肺がんでは、2倍以上の差があった

直近1年間の患者数（平均値）



直近1年間の患者数：疾患別（平均値）



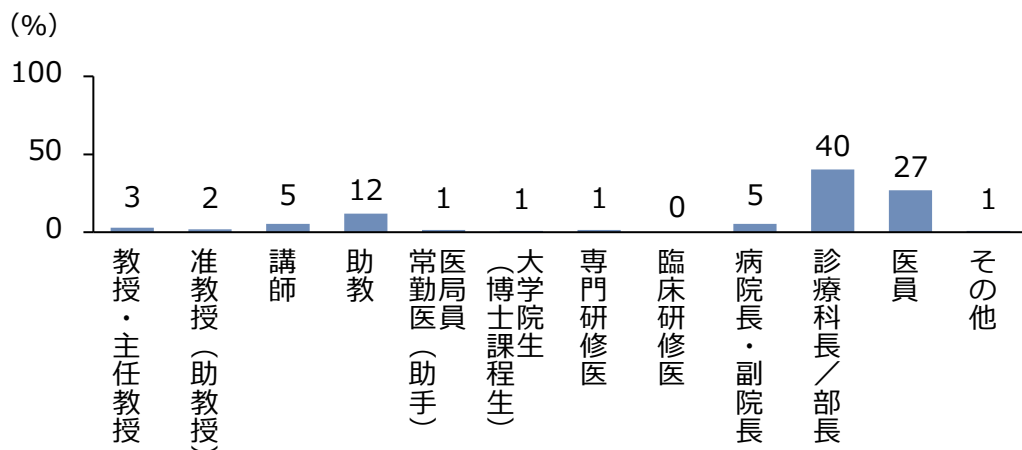
SQ3.【直近1年以内】に先生ご自身が診療した、肺がんのおおよその患者数をカルテベースで教えてください。（数値）／Q1.【直近1年以内】に先生ご自身が診療した、以下の疾患の患者数をカルテベースで教えてください。

回答者属性：役職・所属学会

診療科別

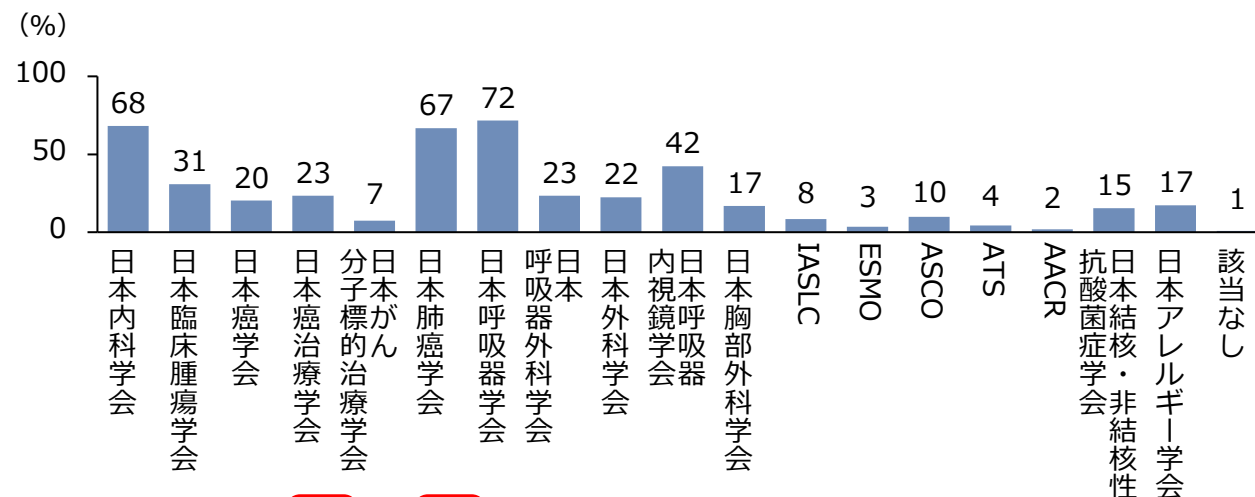
- ✓ 所属学会は内科系と外科系で大きく異なる
- ✓ がん関連学会に関しては、外科系医師でより所属割合が多い

役職



	教授・主任教授	准教授 (助教授)	講師	助教	医局員 常勤医 (助手)	大学院生 (博士課程生)	専門研修医	臨床研修医	病院長・副院長	診療科長/部長	医員	その他
内科系 (n=156)	3	2	6	12	2	1	2	0	6	36	29	0
外科系 (n=45)	2	2	2	13	0	0	0	0	2	56	18	4

所属学会



	日本内科学会	日本臨床腫瘍学会	日本癌学会	日本癌治療学会	分子標的治療学会	日本がん	日本肺癌学会	日本呼吸器学会	呼吸器外科学会	日本呼吸器内視鏡学会	日本胸部外科学会	IASLC	ESMO	ASCO	ATS	ACCR	抗酸菌症学会	日本結核・非結核性	日本アレルギー学会	該当なし
内科系 (n=156)	88	37	21	18	8	61	79	2	2	37	1	5	4	12	4	3	17	22	1	
外科系 (n=45)	0	11	18	42	7	87	44	98	93	60	71	20	2	4	4	0	9	0	0	

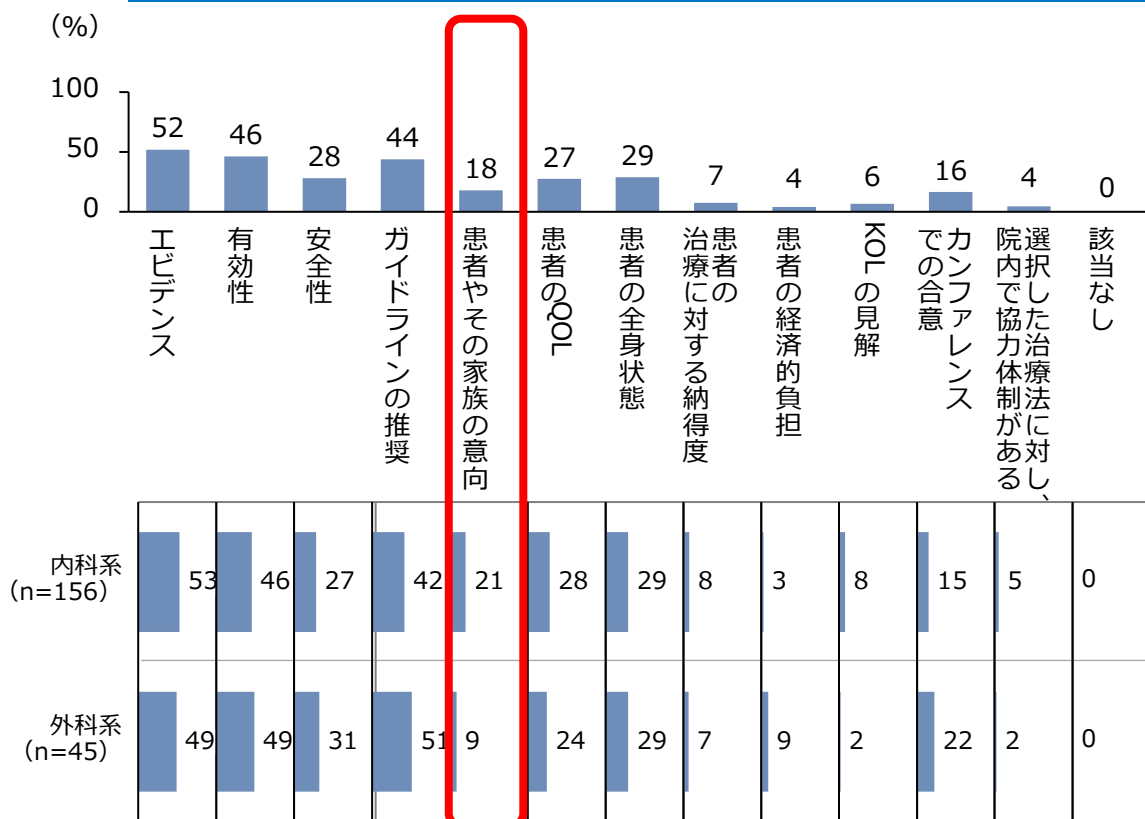
F4.先生の主たる勤務施設での役職を教えてください。(SA) / F6.先生が所属・参加される学会を全て教えてください。(MA)

回答者属性：治療方針

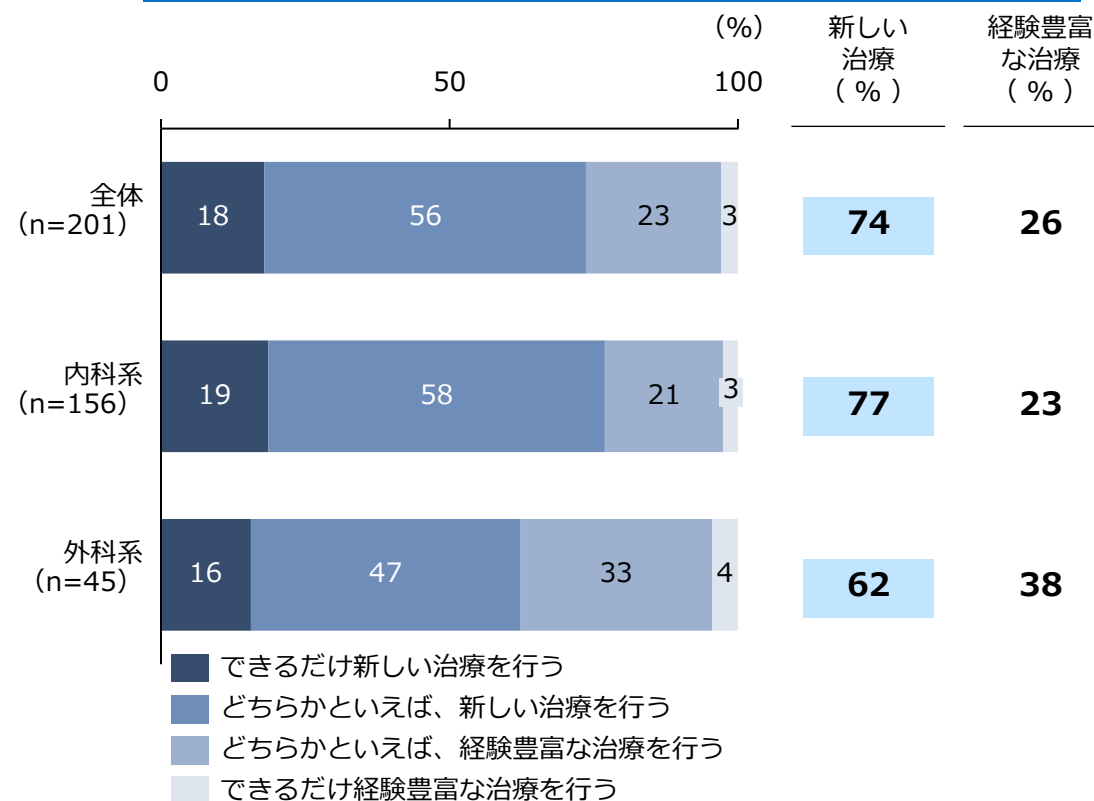
診療科別

- ✓ 治療方針を見ると、エビデンスや有効性、ガイドラインを重視する傾向にあった
- ✓ 内科系では外科系の医師に比べ患者の意向をより重視していた

治療方針を決める際の重視点



最も近い治療方針

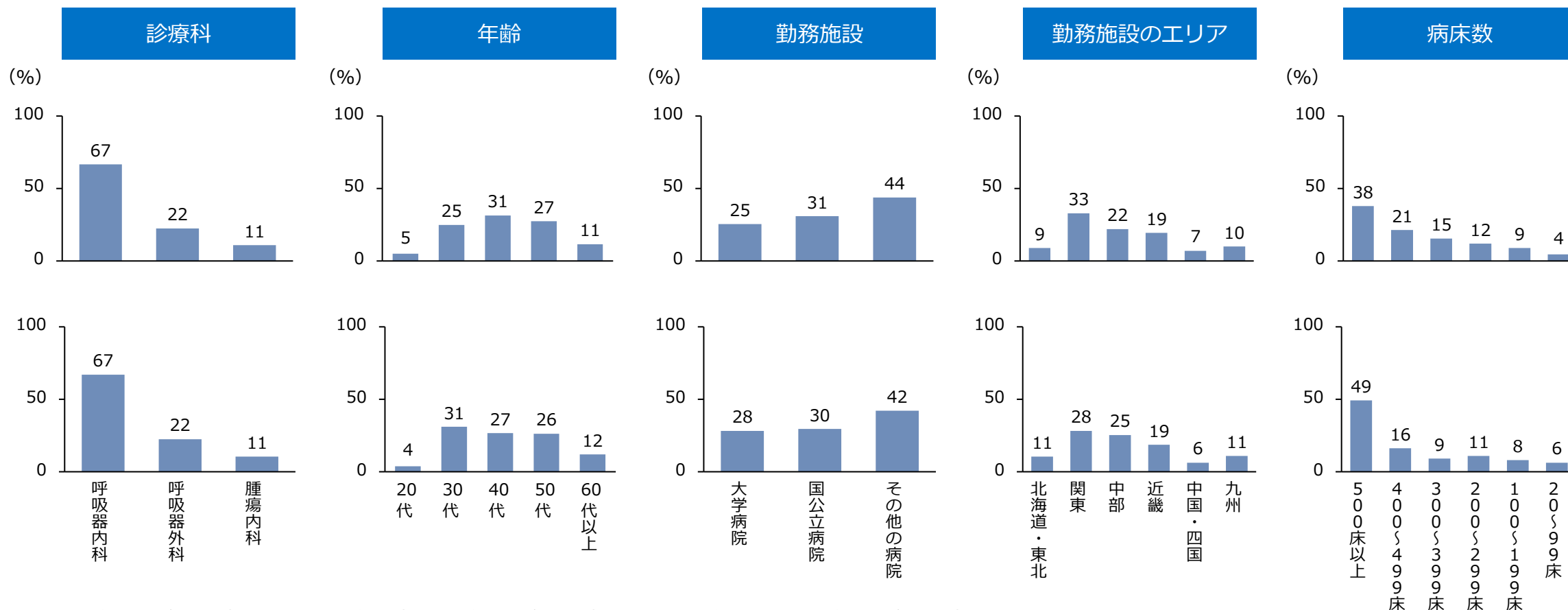


Q29.先生が肺がんの治療方針を決める際に【重視している点】はなんですか。最大3つまで選択してください。(MA) / Q30.以下のうち、【先生の治療方針に最も近い内容】を選択してください。(SA)

回答者属性：基本属性時系列

時系列比較

✓ 前回調査と基本属性において大きく異なる点はない



SQ1.先生の主たる診療科をお知らせください。(SA) / F3.先生のご年齢(年代)を教えてください。(SA) / F1.先生の主たる勤務施設を教えてください。(SA) / F2.先生の勤務先施設の所在地を教えてください。(SA) / SQ2.先生が主に勤務されている施設の、病床数を教えてください。(SA)



Oncologist Fact Report

2021年12月版



CONFIDENTIAL

本資料は、貴社社内関係者のみによって使用されるものとし、本資料のいかなる部分についても、株式会社メディカルトリビューンの事前の書面による承諾を得ずに、回覧・引用・複製、あるいは貴社外部に配布してはならないものとします。